

12 もんたせんせい だいすき

おさるの がっこうの じろうは、もんたせんせいが  
だいすきです。もんたせんせいは、やすみじかんには、  
いっしょに あそんで くださるし、べんきょうは  
わかるまで おしえて くださいます。

でも、きょう、もんたせんせいは しゅっちょうです。  
じろうは ともだちの はなこと、いつものように  
きょうしつに 一いちばんに いきました。

そして、げんきな こえで

「おはようございます。」

と あさの あいさつを しました。

けれども、せんせいの あいさつ

が かえって きません。

「そうか。きょうは、もんたせんせ

いは こられないんだ。」

「じろうさん、さびしいね。」

じろうは、こっくりと うなずき

こくばんを みました。そこには、



せんせいの じが、大きく <sup>おお</sup>かかれて いました。

《きょう一にちみんなでなかよく がんばるんだよ》

一じかんめの チャイムが なりました。もんたせん  
せいの かわりに、きょうとうせんせいが、きて くだ  
さいました。

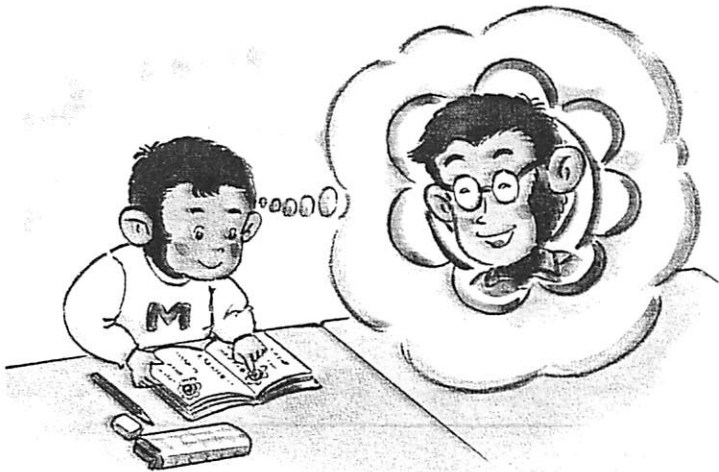
じろうは、みんなと いっしょに、ノートに <sup>のうと</sup> じの  
れんしゅうを はじめます。

『<sup>くるま</sup>車』の <sup>かんじ</sup>かきじゆんは どうだったかな。』  
あわてて せんせいと いっしょに じの べんきよ

うを した ノートを みな  
おしました。

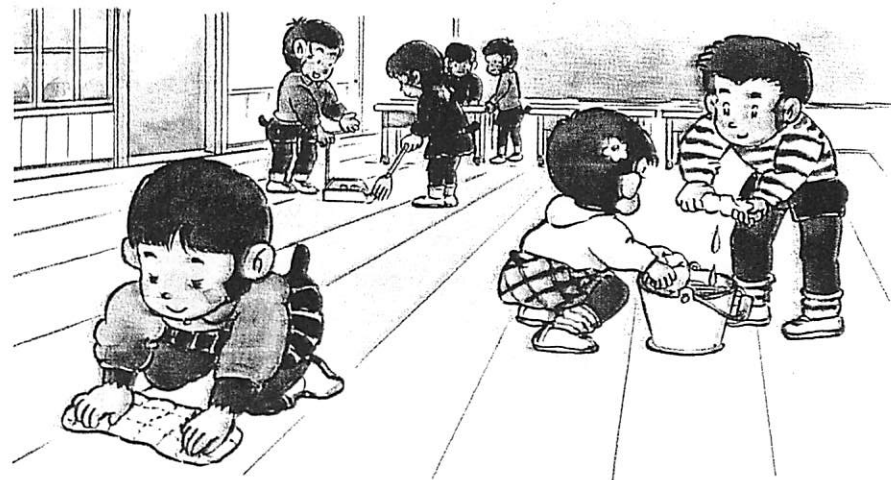
「あつた。もんたせんせいの  
おてほん。たくさん れん  
しゅうして はなまるを  
いっぱい もらったんだ。」  
じろうは、その ページを  
しばらく みて いました。  
すると、はなまるが もんた

せんせいの につこりした かおに みえて きました。



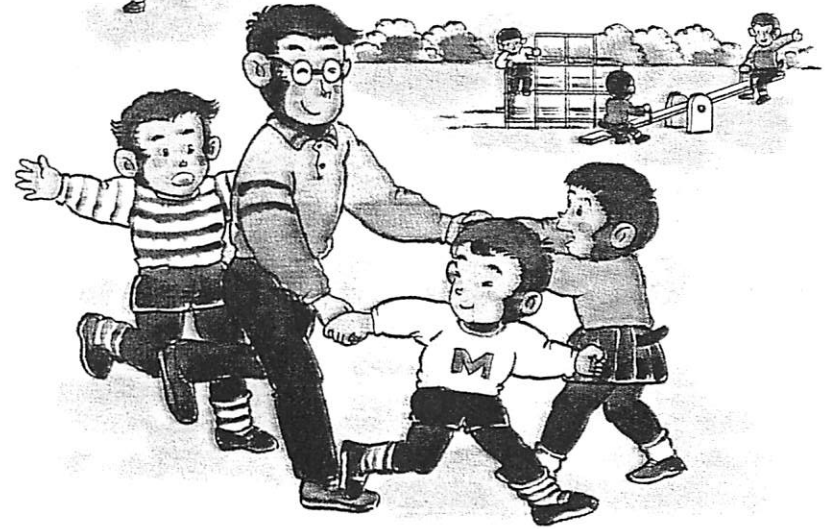
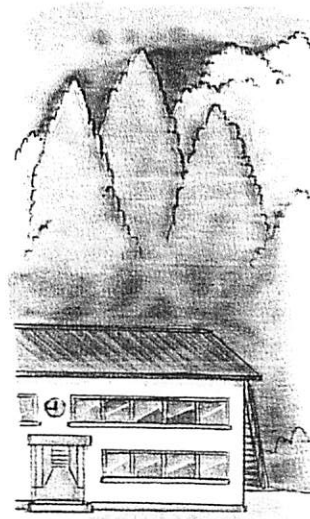


「じろう、がんばれ。  
 じろう、がんばれ。」  
 と、もんたせんせいのことえに  
 きこえて きました。じろうは、  
 ますます ちからいっぱい  
 ゆかを ふきました。  
 はなこや みんなの ても、  
 やすみなく うごいて います。  
 つぎの 日ひの あさ



きゆうしよくが おわり、  
 そうじの じかんです。  
 「いつもだったら、もんたせん  
 せいと いっしょに ぞうき  
 ながけを するのになあ。」  
 ゴシ、ゴシ、ゴシ。じろうも  
 はなこも ももこも たろうも、  
 いっしょうけんめいです。  
 ぞうきながけの おとが、  
 しいに、

うんどうじょうで、もんだせ  
んせいと じろうたちは、  
いつもより にこにこ しな  
がら、うれしそうに かけま  
わって いました。



### 13 イタリアの あさがお

二がつきが はじまって、みん  
なが、せんせいの あさがおの  
うえ木ばちの まわりに あつ  
まっています。



「せんせいの あさがお、はなが  
たくさん さいたん  
だね。」  
「一、二、三、四、五、六、七、  
はあち、八つだ。」

# 12 もんたせんせい だいすき

4-③ 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。(愛校心)

## ①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

学校は、子どもが初めて社会生活を体験する場である。社会生活であるからわがままは通用しない。集団生活の厳しさがある。しかし、そこに絶えず自分のことを考えてくれる教師がいることは、大きな励みとなり、親しみと感謝の心をもつようになる。そしてそれは、教師を敬う心に成長し、それによって学校が好きになり、学校での生活を充実させていこうとする態度や意欲も、しだいにわいてくることになる。

〈子どもの実態について〉

一年生の子どもは、学校生活でしばしば慣れない場面に出会う。特に人と人との関係、集団における自分とのかかわりなど緊張の度合いも強い。それだけに、教師や学校の友達との人間関係をよい状態にもっていくことが望まれる。

担任とのふれ合いを多く求めながらも、自ら学級生活をしようという意識が薄い子どもたちに、担任や他の先生方がそれぞれの立場から自分たちのことを常に考えてくれていることを

とらえさせたい。

〈資料について〉

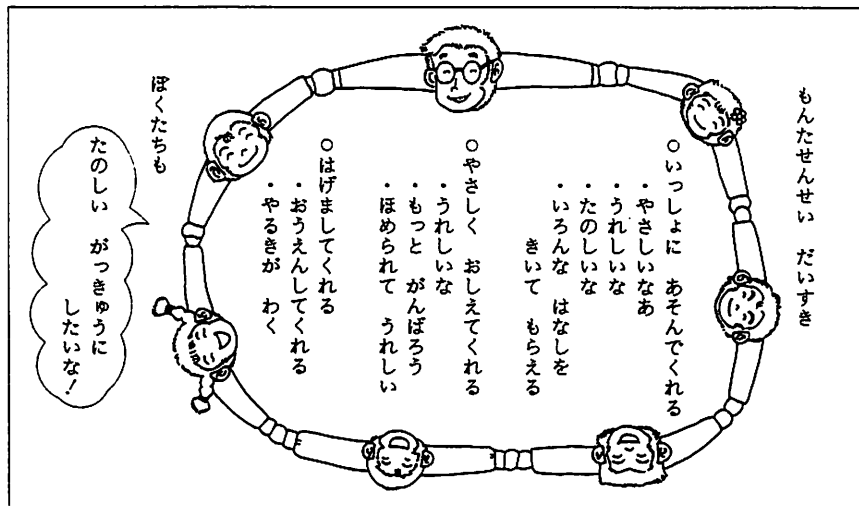
本資料は、おさるの学校のもんた先生が出張のときに、じろうがこれまでのもんた先生とのかかわりを思い出し、もんた先生をますます好きになって学校の生活を楽しくしようということの内容である。

もんた先生が出張でいないときの朝の教室でのあいさつの場面、字の書き方が分からなかったときに、もんた先生からはなまるをもらったことを思い出す場面、掃除の時間のもんた先生の励ましの声の場面、それぞれでのじろうの気持ちに共感することによって、もんた先生を敬愛していこうとする気持ちが増し、ねらいにせまることができると考える。また、次の日は「いつもより」という言葉を大切に話し合わせる中で、学校の生活をしようとする気持ちを育てていきたい。

②ねらい

先生や自分の学級に親しみ、学級の生活をしようとする心づもりを育てる。

□板書



## ③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 入学してからの学校生活について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 入学してからの生活の中で、楽しかったできごとについて発表しましょう。</li> <li>・先生や友達、上級生といっしょに遊具遊びをした。</li> </ul> <p>(2) 資料「もんたせんせい だいすき」を読んで、話し合う。</p> <p>① もんた先生のいない教室で朝のあいさつをするじろうは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもやさしくあいさつを返してくれるのに、きょうはむかえてくれない。さびしいなあ。</li> <li>・いろんな話を聞いてもらえない。</li> </ul> <p>② はなまるが、もんた先生のにっこりした顔になったとき、じろうは、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしく教えてくれたなあ。</li> <li>・いっぱいほめてくれたなあ。</li> <li>・また、がんばらなくちゃ。</li> </ul> <p>③ ぞうきんがけの音が、もんた先生の声に聞こえたとき、じろうは、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もんた先生が見てくれているよ。</li> <li>・先生が、応援してくれている、みんなで力を合わせてきれいにしよう。</li> </ul> <p>④ 次の日、もんた先生と運動場で遊んでいるじろうは、どんな気持ちでいるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり先生といっしょだと何をしても楽しい。</li> <li>・たよりになる。やる気がわいてくる。</li> <li>・先生がいると、学校へ来るのが楽しい。</li> </ul> <p>(3) 先生やみんなと過ごして楽しかったことを思い出し、そのときの様子や気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間や公園へ行ったときにいっしょに遊んだ。</li> <li>・鉄棒ができたとき、いっしょに喜んでくれた。</li> <li>・がんばった係活動を、ほめてくれた。</li> </ul> <p>(4) 教師の話聞く。</p> <p>〔自分が一年生のころの思い出(担任の先生の話をする)〕 〔子どもとの生活の中で楽しいことやうれしいことなど。〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学してからの集団遊び、共同作業、行事などの全活動の中で教師とのかかわりやそのときの気持ちを自由に発表できるようにする。</li> <li>・子どもが追体験できるように間をとって語り、つぶやきを生かして発問につなげる。</li> <li>・じろうとはな子の会話では、対話法を活用し、もんた先生に会えなくてさびしい気持ちに共感できるようにする。</li> <li>・子どもの成長を願い、やさしく励ましてくれる先生のやさしさに気付くようにする。</li> <li>・ぞうきんがけの場面では、子どもと教師の役割演技を活用するなど、主人公に共感できるようにする。</li> <li>・「いつもより」という言葉を大切にして話し合う中で、先生や友達との信頼関係を自覚し、先生や友達といっしょに学校生活をしようとする気持ちがわいてくるようにする。</li> <li>・教師と子どもが楽しく過ごした場面のビデオや写真、絵を掲示する。</li> <li>・教師も子どもたちといっしょに学校生活を送る中で、うれしかったことや楽しかったことを感情豊かに紹介していき、ともに学校生活を楽しくしていきたいという気持ちを深めるようにする。</li> </ul>